地質写真家と博物館のコラボレーション
企画展「46 億年 地球のしごと ～地質写真家が見た世界の地形～」

平田大二（学芸員）

コラボレーションの実現

当館では、2008 年 12 月 6 日から 2009 年 2 月 22 日まで、企画展「46 億年 地球のしごと～地質写真家が見た世界の地形～」（入場無料）を開催しました。この企画展は、地質写真家である白尾元理さんの地形・地質景観写真 54 点と、当館所蔵標本とのコラボレーションによって、世界のさまざまな地形・地質景観を紹介したものです。

白尾さんの写真とその解説は、子ども向け科学雑誌や学術専門誌に掲載されたり書籍にもなっていて、各方面から高い評価を得ています。以前より、白尾さんのすばらしい写真を紹介することができればと願っていましたが、今回、白尾さんと旧知である斎藤靖二当館館長の紹介により、企画展を実現することができました（図 1）。

展示の前に

白尾さんの写真は、雑誌「子供の科学」に連載され、単行本「世界のおもしろ地形」にまとめられています（いずれも誠文堂新光社刊）。今回の展示プランを考えるために、雑誌などに掲載された 170 点あまりの写真を、いくつかの景観の種類に分類しリスト化しました。そして、そのリストを眺めながら、白尾さん、斎藤館長、石浜学芸員と一緒に展示プランを考えました。展示の構成は、世界の地形を現象ごとに紹介するコーナーと、地球の歴史を物語る景観を紹介するコーナーの二つを柱とすることで、すんなり決まりましたが、問題はタイトルです。いろいろと頭を悩ませているうちに、白尾さんが『これらの地形は地球が作ってきたもので、いわば地球の仕事です。語呂がいいので、「46 億年 地球のしごと」はどうでしょう』と提案されました。これで、タイトルが決定です。ただし、「46 億年 地球のしごと」だけでは展示のイメージがつかみにくいので、最終的にはサブタイトルに～地質写真家が見た世界の地形～を付け足しました。

図 1 展示室のようす.

その次は、広報用のポスター、チラシの作成です。「レーストラックの迷子石」が素材となりました。砂漠の中の干からびた地面の上に、遠くから動いてきた石ころが、止まっているものです。一体、どうしてこのようになるのか、みんなの頭を悩ます写真です（図 2）。

いざ、展示

展示作業は、写真リストから選択した 54 点の原フィルムのデジタル化からはじまりました。原フィルムのスキャンと画像補修や色補正、プリントアウトするプリンターとの色調整などを行ない、テストプリントをした後で、大きなサイズでプリントしました。プリントには、画面が引き立つように黒縁をつけました。プリントをスチレンボードに貼り付けた後、黒のプラスチックフレームを取り付け、写真パネルの完成です。言葉で表すと簡単そうに思えますが、ここまでの作業で試行錯誤やいろいろな苦労がありました。白尾さんも一抹の不安を感じていたようですが、出来上がりを見て安心してくれました。また、写真にあわせて解説文を 200 字程度に短くまとめるのも四苦八苦となりました。そして、博物館とのコラボレーションですから、実物標本の準備です。写真と同じ場所の標本ばかりではありませんので、違う場所の同じような標本や、関係する標本を展示することにしました。写真と標本の両方を見てもらうことで、地球のしごとを体感してもらえればと考えました。

展示のようす

最終的に展示構成は、I. 世界のびっくり地形、II. 地球の「履歴書」、III. 地球のしごとを撮る、IV. 地球のしごとツアーとしました。I. と II. は写真と標本のコラボレーション、III. は白尾さんの紹介コーナーとして著書やカメラなどの取材道具、IV. は写真の撮影現場がわかるように発光ダイオードをつけた世界地図です。解説ラベルや標本ラベルには、項目ごとにシンボルマークとシンボルカラーをつけ、見学者に展示構成を意識してもらえるようにしました。

「I. 世界のびっくり地形」は、火山の噴火や溶岩流の形、水や風による浸食、砂漠や氷河、断層活動、隕石の衝突など、地球のさまざまな自然現象が作り出した地形を紹介しました。

火山の噴火や溶岩流などの火山現象は、地球のしごとのうち「火のしごと」です。マグマの成分や温度、噴火の場所の違いで変わる噴火のしかたや火山の形、マグマが冷えてつくる形や地表に現れたマグマの痕跡などについて、世界各地の火山の写真を展示しました。露出展示した柱状節理の標本は、現場の臨場感を伝えてくれていました。

雨や川などの流水や、強い風による浸食作用でできる地形や現象は、「水と風のしごと」です。天然の橋レインボーブリッジや石灰石の尖塔ピナクルズ（表紙）、美しい谷アンテロープクリーク（図 3 左）などの写真から、その様子を感じることができます。

砂漠の砂や、氷河の動き、大洪水などによってできる地形や現象は「砂と氷のしごと」です。ヨーロッパアルプスのメール・ド・グラス氷河（図 3 右）、氷河が運んできた迷子石（表紙）、砂漠の中の迷子石（図 2）などです。南極の大きな迷子石の標本は、来場者の興味を引いていました。

断層が動いてできた地形は「大地のしごと」です。サンアンドレアス断層や台湾でおきた集集地震で動いた断層崖の滝などの写真が、その様子を伝えてくれていました。

「宇宙のしごと」は、宇宙空間から落ちてきた隕石の衝突によってできる地形や現象です。世界各地のクレーターの写真と、隕石や隕石衝突のときにできる岩石類を展示しました。

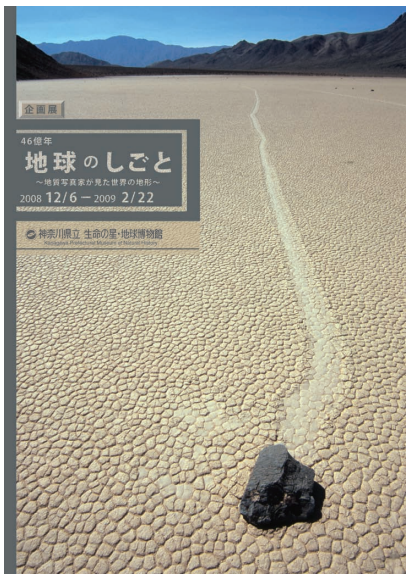

図 2「レーストラックの迷子石」の写真を素材として作成した広報用のチラシ.

図 4 左上：「地球の『履歴書』」コーナー．地球 46 億年の歴史に見てた 46 m 長のロープもあわせて展示した（写真下）．左下：白尾さんが使用しているカメラや装備を展示した「地球のしごとを撮る」コーナー．右上：ボタンを押すと写真を撮影した場所が発光ダイオードで光る仕掛けの世界地図．右下：クリスマス サイエンス・トークのようす．左奥が白尾元理氏.

地球のしごとの最後は、「ひとのしごと」です。地球がつくりだした岩石や鉱物を、人が資源として活用している様子を紹介しました。ダイヤモンド鉱山や溶岩をくり抜いて造られた巨大な寺院群、隕石孔（いんせきこう）のなかにできた中世ヨーロッパの城下町などを紹介しました。標本としては、ダイヤモンドや鉄鉱石、石材を展示しました。

「II. 地球の『履歴書』」は、46 億年の長い時間の中でおきた地球のしごとを紹介しました（図 4 左上）。地球のしごとは、岩石や地層の中にさまざまな形となって残されています。35 億年前の最古の生命化石を含むチャート岩にはじまり、小さな貝殻だけからなる海岸まで 16 点の写真と、縞状鉄鉱石（しまじょうてっこうせき）、サンゴ化石、恐竜化石、哺乳類（ほにゅうるい）化石、人類化石などの標本を展示しました。

「III. 地球のしごとを撮る」は、“必撮（ひっさつ）しごと人”白尾さんの紹介コーナーとしました。プロフィールとともに、写真を掲載した雑誌や図書類、白尾さんが普段使っている撮影用カメラと装備、小道具類を展示しました。カメラ好きの方にはたまらないようで、こちらを熱心に見ている方も大勢いました（図 4 左下）。

「IV. 地球のしごとツアー」は、I. 世界のびっくり地形と II. 地球の「履歴書」の写真について、現地の位置がわかるように世界地図上で発光ダイオードが点灯する仕掛けの押しボタン式世界地図を展示しました。この地図は、神奈川県立小田原城北工業高等学校電気科の職員の皆さんの協力を得て、海野範幸（うみのの のりゆき）さんが悪戦苦闘しながら製作した労作です。おかげで、大人だけでなく子どもたちにも人気を博していました（図 4 右上）。

白尾さん登場

企画展の開催にちなんで、12 月 20 日にクリスマス サイエンス・トークと称して、白尾元理さんと斎藤館長のトークショーを開催しました。予想を超える聴衆（ちょうしゅう）の数となり、会場も急遽拡大することにもなりました（図 4 右下）。白尾さんの撮影のときの苦労話や楽しい思い出を中心に、お二人のユーモアたっぷりのお話をうかがうことができ、参加者も十分に楽しまれた様子でした。

また、白尾さんご本人が会場で解説をしていただいた日もあり、その場にいあわせた来場者は、感動もひとしおだったと思われます。

おかげさまで

おかげさまで、入場者は約 1 万 5 千人となりました。当館の特別展・企画展は、毎年限られた予算で対応せざるをえない状況ですが、入場者の皆さんには満足していただけるよう、外部の方々の協力も得て計画、開催しています。今回の企画展も白尾元理さんをはじめ、展示写真のデータ準備や展示解説パネルや世界地図などの製作や展示作業などに多くの方のご協力をいただきました。この場を借りて、お礼申し上げます。

図 3 展示に使用した写真（左：アンテロープクリーク，右：メール・ド・グラス氷河）.

自然科学のとびら
第 15 巻 1 号（通巻 56 号）
2009 年 3 月 15 日発行
発行者　神奈川県立生命の星・地球博物館
館長　斎藤靖二
〒 250-0031 神奈川県小田原市入生田 499
Tel: 0465-21-1515 Fax: 0465-23-8846
http://nh.kanagawa-museum.jp/index.html
編　集　石浜佐栄子
印刷所　朝日オフセット印刷株式会社

© 2009 by the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History.
R100
PRINTED WITH SOY INK